すゑはむ花

若紫 并

哥を名とせり

[v. 6]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 6
Copy 1
Asian
Japan
Case

LIBRARY OF CONGRESS

2004551302

源氏十七ヤより十八ヤの表まで也 源ム

思へどもたすをたのぶりしタがかの家をそれし、
程(かど)の心ちぞし月かれどおぼしもすれず。こくを
りしこもうちとけぬりぶりのりしきぶ。心ぬるき
りるの作いどましさまけぢりくなりしりし
いたれまぐ弟抱なりう恋(こひ)たくおぼしぬふ。いうぐる
とくたき笑(おが)しいなすく。いとらうたげなるん人の。
つましきことなるんえいきそしがれと。こり
ずまるおぼしわれば。すこしゆへづきて男(きこ)ゆり
わたりは。作こくともありぬるぬ人海なすきるまさて
もやとおぼしよりぐらりのけもひあるあたりは
こそはひとくぐりともほのめしぬふめなり。

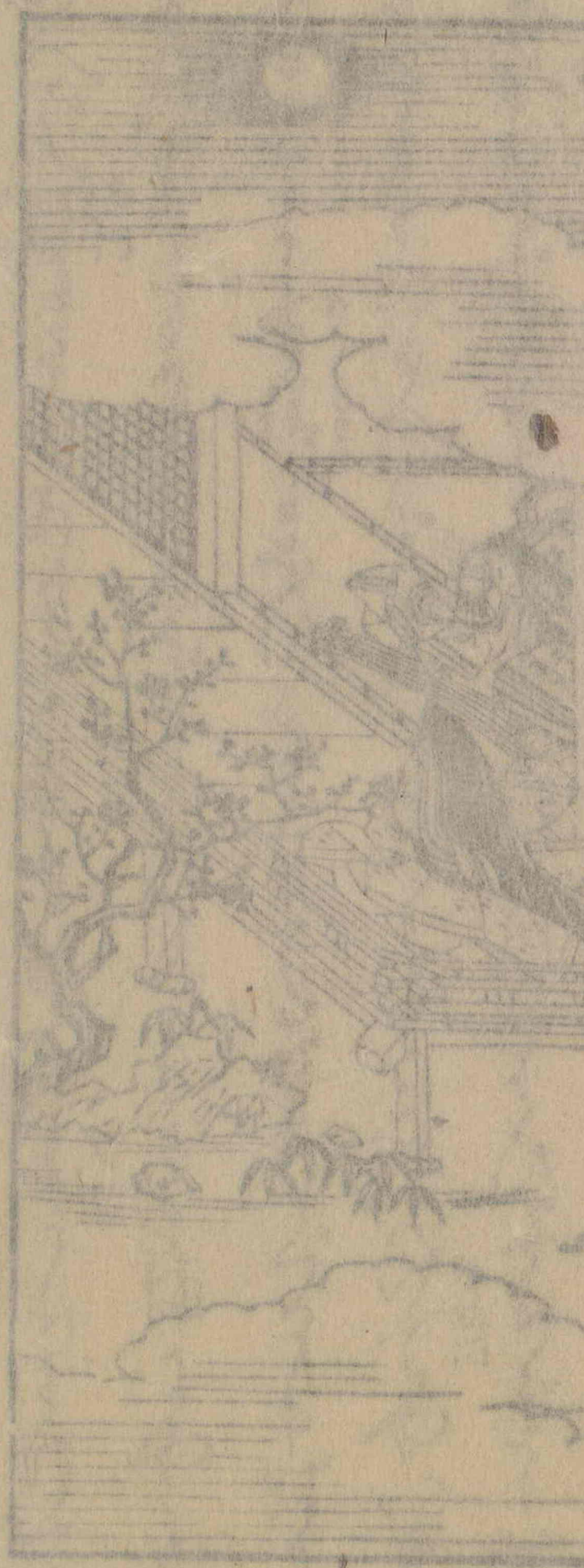
なびなこそしずもそくなれたるハおきくある
まじこそぞいとめなれたるやつれなまう心づよきハ
ことしへなまう情（なさけ）とくるくまめやかきなぞあまり
もれくほどしらぬやうにさてしもすぐしそてず
名所（なごり）なくくんげとれてなをくしきうにさぶまり
などするもあれバのまひさしつるもおほうりげり
かれ蛍（うつせこ）を。ものくありくまはしこうおぼしいが。
蔵（かき）の柴（く）もさりぬべき風のるよりあるときハおどろ
りしまふおりもあるべしかかげのこぞれたりし
さ夜ハまんさやうにてもこまほしくおぼす。大かた
名所（なごり）なまさ地口すれをぞえし給ハざりけり。左衛（さゑん）の

めれとて。犬貳のあまれさしつぎまおぼいたる
がむすめ。大輔の令姫とて。うちまさふる姫。わる
むどとりの兵ア(ひやうぶ)の大輔(たゆふ)なるが。むすめなりけり。いと
いたう色(いろ)これめるわかへまてつりけるを。恋(ゆ)もめし
つひなどしまふ。たゞ(ちく)ゐ筑前守(ぜんのかみ)のめまてそぐり
まけり。これ(令姫)いちく(兵ア大輔)恋のもとをさとまて行(ゆき)かよふ。こひ(大輔令姫詞)
ちのみこのすゑままうけて。いとじうりしづき給し
此姫(こひすめ。若生恋之未つむのすゑ)。ころほそくてのうりぬ給しるをことのつゐで
まかりまうしそれば。あ(源詞)れのことやとてとひまて
まふ。心(令姫詞)だへかたちなどあるきかるはえ志りもべしず。
かいひそめ(潜)ひとうとうもてなしまへばさべき

よひなど地ごしまそぞりこひ侍り。さんとぞなる
りしきりこひ人とおもへると望(さこ)ゆ是ば。三川(源詞)のとも
まそいまひと(酒と云こ)くさや。うこそあらんとて。我は望(さう)さよ。
ちく(常陸交)みこのさやうのりこまいとよしづきそ此し
給かれど。そしなすべてのまづひまはあらじと
しふとりこひ給。さや(令姉詞)うまさこしめ寸ぞりまは
侍らずやあらんといへば。いこう(源詞)宇(けしき)父ばましや。こ乃
比の勝月(おがろ)夜は志のびてもれをん。ありぞよと乃
こまへば。わづらくし(令姉ん)とおもへど。うちわくりもの
どやりなり。ちりれつれぐまもりぞぬ。ちの(地)大輔(たゆ)
のきこは。ほりまぞすまけり。こしまは(水つむの方こ)とさゞへぞ

かなひけり。命婦（三事ノ）ハまくくのあたりハすこも侍ハ
ず。ハ（ホつむ）めぎ君のれあたりをむつびてこゝまハくる女ハり
の（源ノ）給しもしるく。いざしよひの身おかしこゝほどすり
おりしたり。いとかなしたらいたきわざかれ。ものゝ（れ）書す
むべき和のさ夜まも侍らざめるまとこゝゆれど。
（源ノ）なほあるまはわたりて。こゝひとゝ思ものほし
こゝろよ。むなしくかへん心孫なりんべきなしと
のまへだ。うちとけたるすゝかまりて。（そまち）う（令婦ハ）しる
めたうかたじけなしとしんぞ。しんでんままいり
これだ。まぐさうしもされがら。（むめ）梅のかおかしこゝほ
こいぐしてもれしまふ。よきおりかなとしひそ。れ

ことの音（ね）いかままきり侍らんとせひこまへらかく。
よかれけるひまさそこれ侍りてなん。心あはこ
しきいでへまえうけこまもらぬこそうらかし
かれといへ（ぶ）あ（ぶ）れ（きく）ぶる人こそなれ。もくしこまま
けりふ人のきくぐらりやいとて。めし（琴を）よすかも。あい（命婦を）
なういかぐこさく給ふんとむまつぶる。ほ（まつむ）のうまかき
なくしまふおかしう。罕（きこ）も。なまぐらりふるきて
なくねど。ものくねがくのすぢことなる物なれば。罕（きこ）
まくもおぼされず。いと（地）いたうあれわたりて。さび
しき所まさばかりの人のふるめかしう。ところかく
りづきすへたりけん。名前なくいかまおもほし



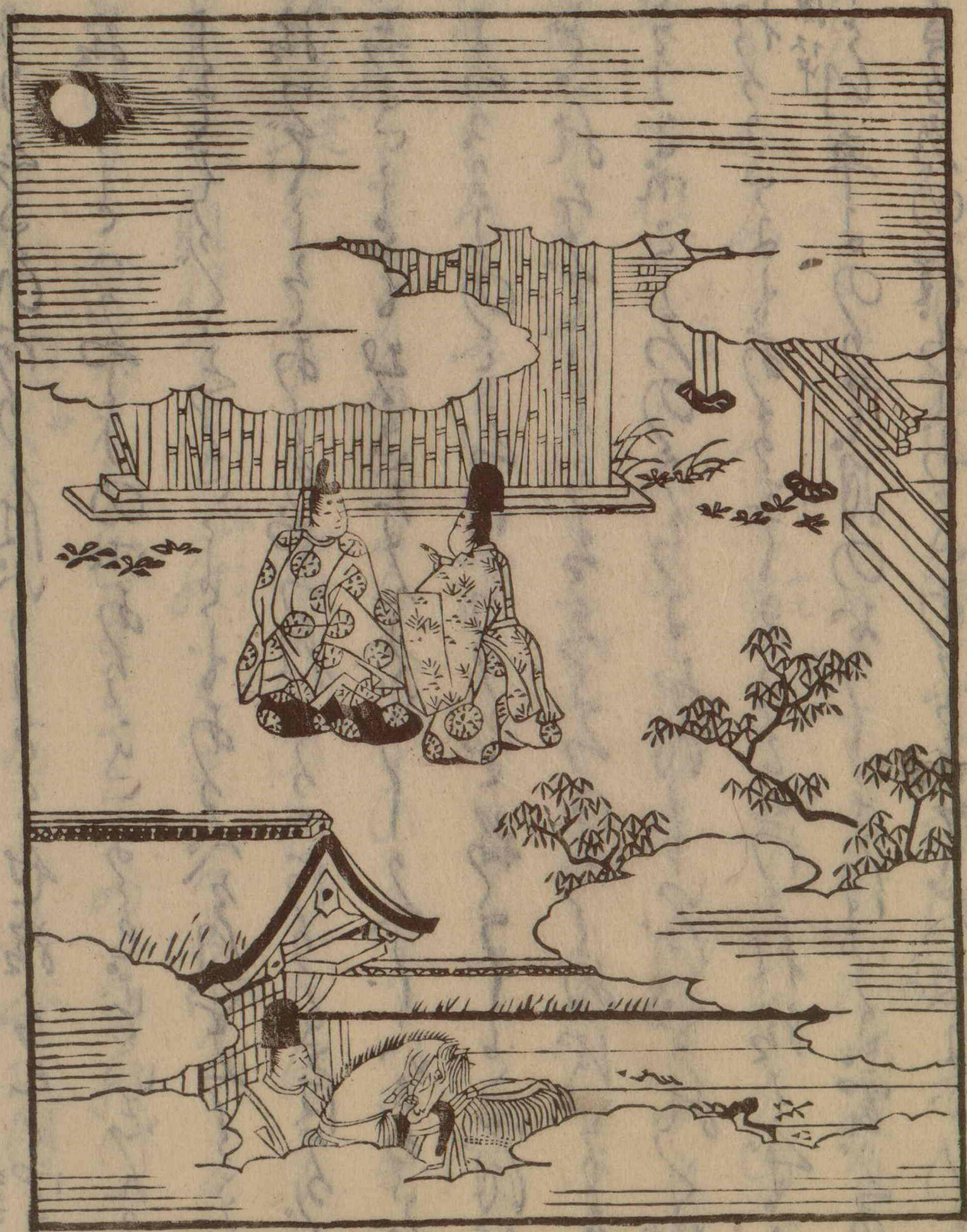
のこすことなりたんかやうの事まことそれ。芳柳絶（むりまがたり）
まもあれなりことごもなりそれなど。ひつで
そて。もれやいひからましとおぼをど。うらけ
けなやおぼさんとこころもげりしくそやすら
ひこまふ

命婦などあるも此にて。いたうこくなるさせ[そま]なんじ
とせひかれば。くもりがちに[命婦詞]なりまらうとのこんと
侍りつるいとひがかにもしそ。今心のどうにを。ミクうし
[まい]無りなんとて。いたうもそぐのうさぐ。くりこれば
なすり[源詞]なる程にてもやゝぬかれ。もれ[さく]罪わく程
にもあゝぞ。ねたうとのおふ[けしさ]年久。[地]おうしと[おが]覚しる
[源詞]まおなすじくいかちかさほどれかくひ。たちぞうせ
させしとのゆへど。[命婦ん]ころにくてとせへば。いでやいと[命婦詞]
[ありさま]守りなる有様にせひこそして。ころぐるしげに
もれしこまふめるを。うしろめたさき夜にやと
いへだ。[源詞]げにさもあると。[よハう]俄に我も人もうちとけて

きやうだいへのみちは。たゞことゝそあれなどゝ哀(あはれ)
まおぼさるゝ人の本意なれば。猶(なを)さやうのことをも
ほのめかしもとめかひあふ。まことに契(ちぎり)かへるかるやあ
らん。いとゞあはれにつもりまさるに。人へのまゝに令嬢(?)
おはします。さてなやましさをせめおもふにこそ。
おもうやうにもおもひくるしきはやうの御
やつれ姿(すがた)といゝてくはしくはなれば。御いたはしさを
れば。源 きちやうちうちかひて。ことに人へのいかにもやう
まことにあはれさこれぞこれをあはれとおもひける
まひとゝいへど。めの有様(ありさま)くるしかりしとのさまへば
地 おきのりいるめいたりとおぼしめして。御ゆくへのおきを

まげりとしひて。抱もいたず。志んでんのうたり。
人のけはひまくやうもやと覚して。やをらうち
いでまふずいりいの。こゞすくしおれのうりうろ。うく
れのうちは立(たち)よりまふまもとよりうてう男(おとこ)あり
なり。誰(たれ)なるん。心かけうろすきもれありなりとおぼ
してかげまつきてうちうくれまへだ。夜中(とうの)ねなり
なり。此夕つるうちよりもろともまゝまうでまける。
やがて大夜(との)まもよらず。二葉(でうのゐん)院まもなうで。引別(ひきわれ)
まけるといづちなるんとしてなうで。かれも引(ゆく)る
あれど。沿(あと)まつきてうかゞひなり。あやしき馬(むま)は。
りぎぬすゞのないがしろまてきられば。こうしり

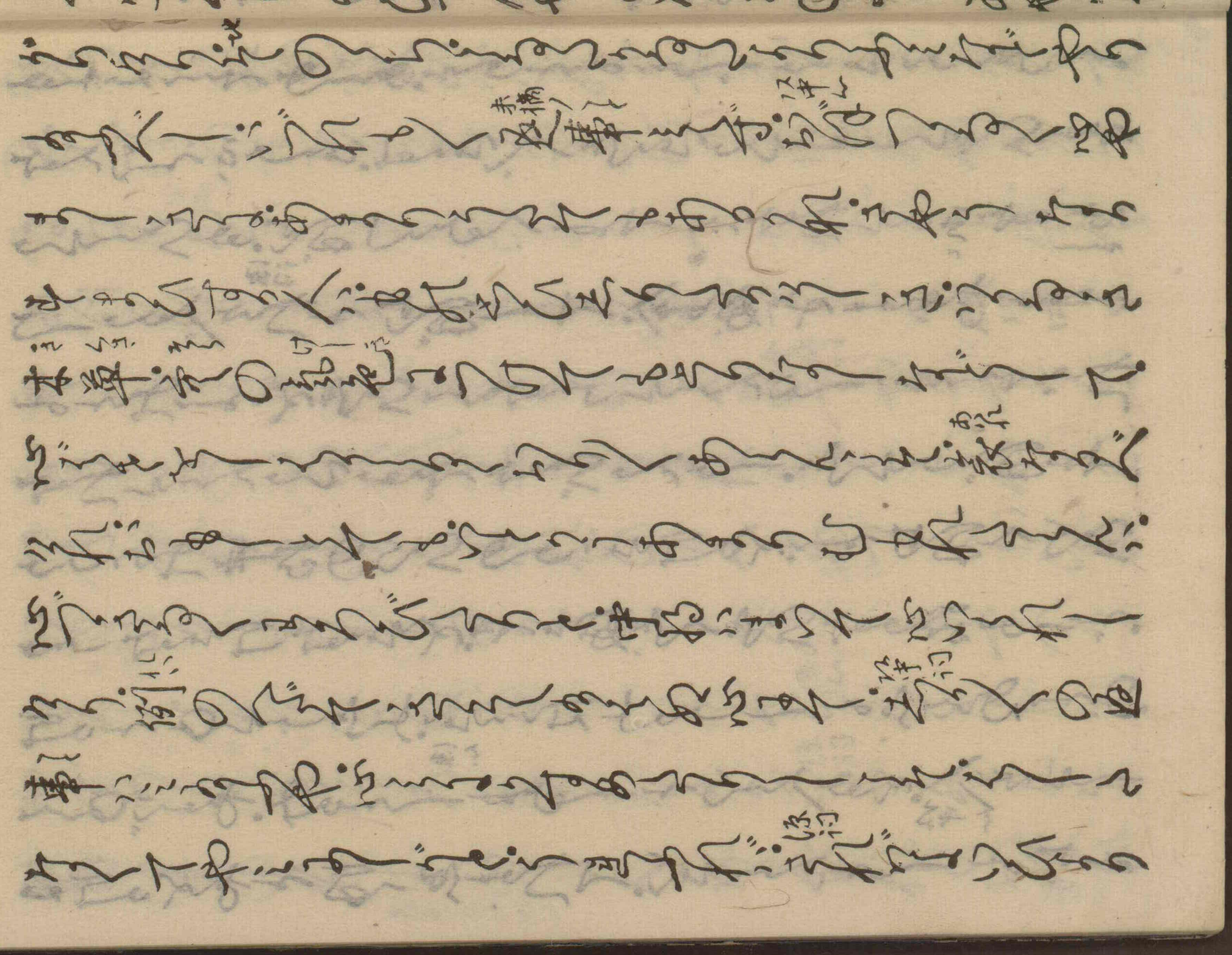
ぬるぬまさすがにかうことゝるまへのひぬれば心も
えすせひけり程ものゝねるまさつゝそゝるまかへり
やむのふとしてまつしなりなり。源 君は誰れともえこゝわき給
まぐ我としられじとぬきなしまあゆゑのきぬふる。
公中 かとよりてかり捨すて させのへるつきまれとくりつふまつりつ
公中 をろともるたうち山をいでつれどいるゝ
ゝをぬいざよひの月とうしむかもゝるゝれど。源 山君
とゝのふるすゝしなりしうなりぬ。人のせひよら
ぬことよとまくむくく
源 さとわかぬかげをばこれどり月のいるさの
やまぬこれゝ所ぬる



仏中詞
うらしたるひなりがば。いかまをさせ給ふんと四九(きこ)
給。おとゝはかやうのれありこさまでも。ぜいぜんから
こそ。ぐらぐしたきこともあるべかれ。とゝろさせ
給ひでこそてあらめ。やつれたるれなりきはがるぐ
しきことも出きなんと。としかへしいさめこそ
まつるかうのこゝろけらるゝを称ましとおぼせ
どかれなぞしこゝろえたるぞ。しろぬ。ともさ
こうまれこゝろのうちまおぼしいぶ。とれく狭(ちぎ)
わかるまもあまえてえゆきわかれ給ふず。ひ
と川(源仏中)車まのりて。月のおかしきほどに。雲がくれ
たる所の程。おしおきあるをて。犬飯(とみ)まおりしぬ。

さきなどもおはを給はず。志のびいりて。ひと
ゑぬらうまれなとしめしてきうへ給。つれなう
いまくるやうまて。れ笛（ふえ）どもふきまさひ
おくすれば。おとゝ（左大臣）れいのきてすぐし給はぞ。ゝ御
笛とり出すへり。いとよ（ず）くりおもすれば。いと
おもしろうふきすふ。れこと絶して。うちまも
これかるまころえろうへぐるひかをすふ。中務（なかづかさ）の
きこ（萎ノ女三）ゆぐとびくひけど。頭（とう）の君ころかけこるを。
もてこれれてこゝ（源ノ女）これこまさうなるれ（こ）りしきの
なけりしきをば。えそむなきてぬる。をれげから
くれなくて。大宮（萎ノ母）なすどもよろしからずおぼし

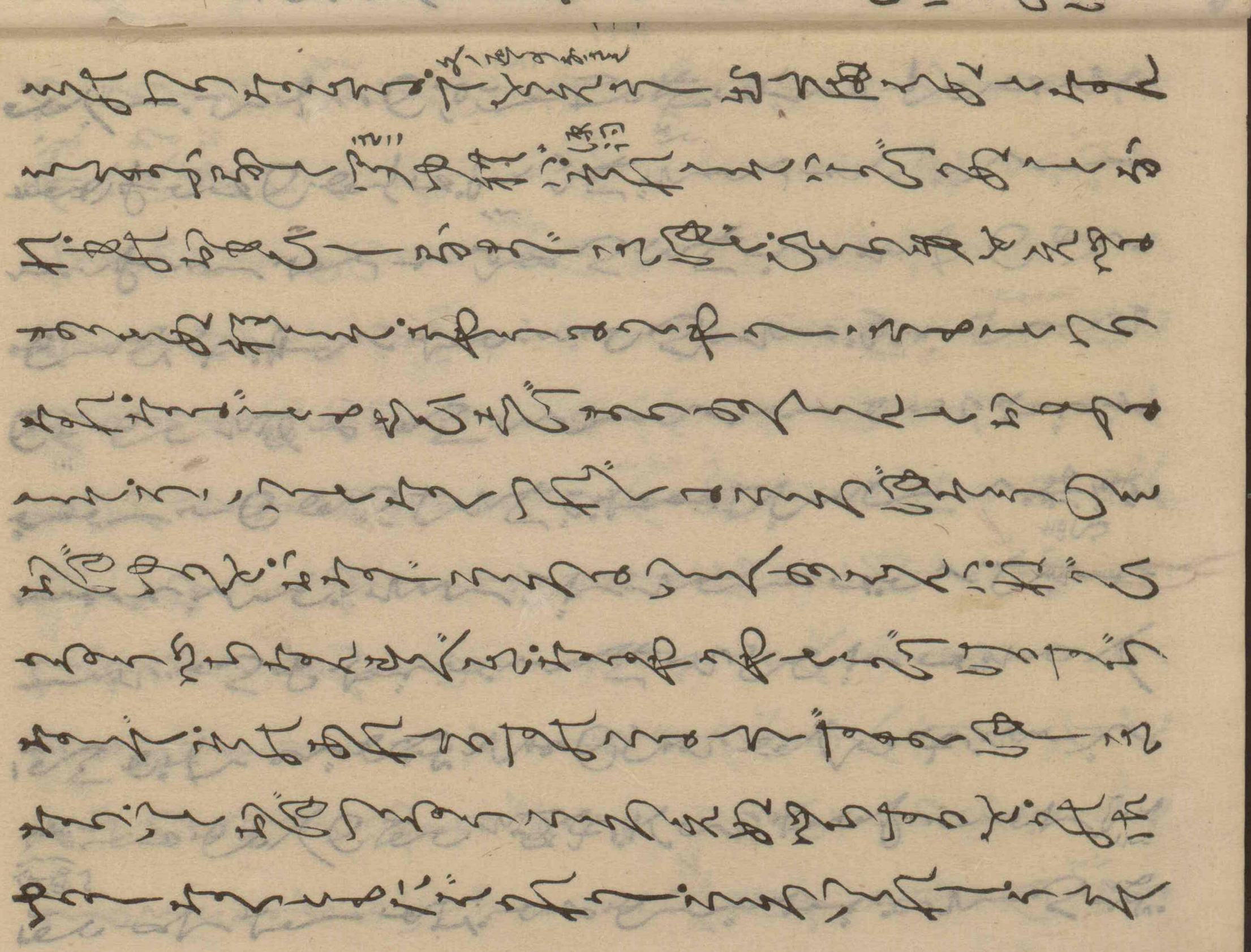
なりこれが地おもしくりこるまこころ志て
すさまじげまてよりふしたりこして三年(しとせ)ぬ雨(しとち)は
かけもなれなんもさすがに心ぼそくおもひこぶれ
たり。君(源以中)こちは何りつゝ琴(きん)の音(ね)をおぼし出て衣(以中ん)げ
ぬつゝすまゐのさ夜なども。やうがへてるおかしう
志ひつゞけあるましごとよいとおかしうらうたき
人のさて年(とし)月とうきねぬたんとき。こそめて
いこじうろろぐるしくは人にももてさはがな
ぐりや。わが心もさ夜あしからんなどさへ。中ねも
志ひかり。これ(以中ん)君(源)のうし宇(け)安(しき)ばこ何りき給とまきる
さてはすぐしまひてんやとなまゐしたりあやう



まけるをやとゆくゑまれて、いさこんとしもおも
ちゆげるや、みるとしもるしといへ人のを、人中ん さし
けるとゆこうせふ、さこ（源ん）は、ふうしもせるぬとの、
かうなさけなさをせさ夜ぜくせひなり給ましど、
かうこれ中ねのいひありこさけるをことおほくいひ
なれたるんかたまぞなびかんかし、せうりがほそ、
もとれことをせひたなちたるんかしこさそれ
りかるべかれとおぼして、命婦をまあやかり
かたひ、おぼつかるく（源河）もてたなれたる（これ）なまを（しさ）
なんいと心うき、すさぐせうさうこうこうぶひよを
まよまとてあしあ、さりともこうじかさこうろも

えつもぬ抱と人の心のれどやかなかことなくて
しもぎまのこなりまなんどのげかしけがあやまち
まなりぬべきこころのどかまてかやりかれまて
あけかひうしむかもなうこころやすかん人は中く
なんらうしうるべきをとのぬへばいで（余婦詞）やさやうま
おかしさうるのれかきやとりまはえしもやと
つきなげまこそこし侍れひとへま抱つくしひさ
いりこかうるつしもなりがたうまれしぬふ人可
なんとこうなりさ海かうりこさしもらうくしじう（添ん）
かどめさしうこころはなきなりいとこあうしう（添詞）
おほとうなんこそらうしくはなるべかれとおぼし

わすれずののふ。やうやうまかづらひまうひ。人去
れぬかれさひのまうざれもれ心のいと度なうさやう
まそ。要蔓るめ。秋のれほひ。さげるおぼしつげ
てがみこさぬさの暮もこゝまつさそ。哭うくうし
さへしひきうおぼし出うくまよ。ひらちのさ
またしばし哭かへどなくとおぼつるものとあれ
むかしよりて心やましうおぼろそこやまじれこゝろ
さふらひて。命婦をめさるふ。いうなるやうぞうさゝ
かしこしてまかでさせけるとも思ひて
のすへべう。いとおしとさひて。まゐてくるれてあげなさき
れいもおもしげなげ。ずいぶいさゝのれものけ



ほりもそなしまはよもあらじなどうたひ給
（令嫁心）
ずよまあり人のほりさ海を大かるなるやうにて字（さく）
ほりめみくとぐめ給くをのつきゆへるをさうじぐ
しきよひゐなどまくれきつゐでまさり人
こそとぐらうさくしいでくりしまうくわざと
がましうのまひわたればなまわづらりしく姫君（まつむ）
の（三）れありさ海もまりかくしくよりめきなども
あらぬを呼くなりうちひさまいとおしき
ことやうしなんとおもひかれど・さみのかく
まめやうのまふは字（さく）いれざらんもひがくし
うべしらみこのおりけり折（おり）まざまふりまゐ

何ぞりとて着たまひ罪ゆゑ人もなりけるとまして
今ハ浅茅わくるひとも訪してしるまうく世まめづら
志き御けくひのもり匂ひくるとばなる海女びらなども
過ぎまけてなるを罪しまへとそぐのし生れど
あさましう抱つくしぬふ心にてひたふるまん
もいれたまはぬなりけり命婦ハさしばさりぬべ
かんおりに抱ぐしまきてし給りん間ど御心り
つぎにさてもやうるかしまるさるべきまてかり
まもおりしかよんとどめのぬべきへなしなど
あざめきたるハやり心もうちさひてぢくぞこまも
かうことなどもいんざりけり八月廿六日よひ過る

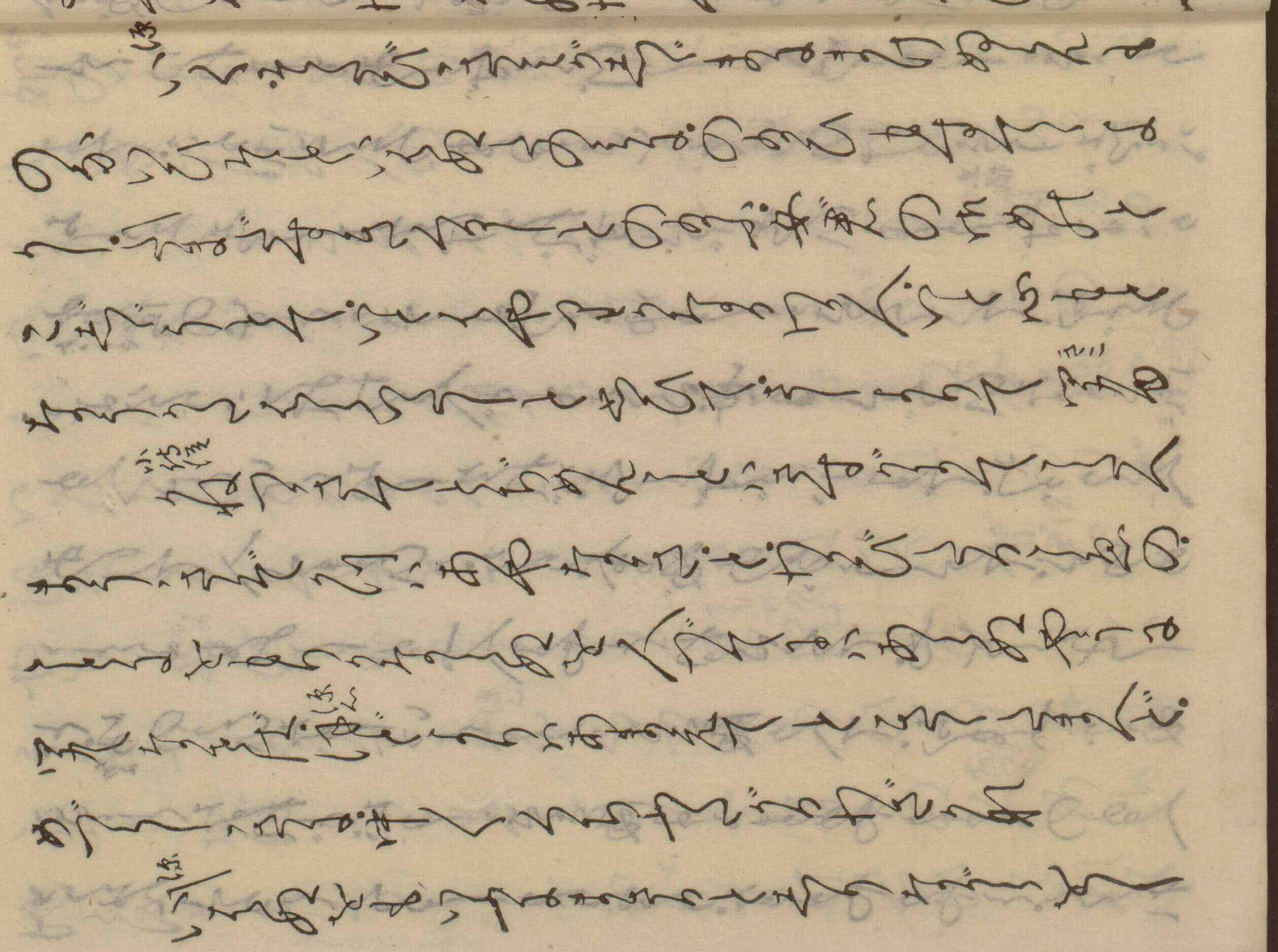
まぞまゝゝ月の心もとなきは、ほしの光ぐらり
さやけく松の末す思ふく風のととゝろぼそくて、
未摘いましへのことゝろ出てうちなきなどし給、いと令数
ゝきありれと思ひて、れせうそこやきてつん、
例のいと思びておりしゝり、月やうく出て、何れ
しろまがきのほどうとましくうちながめまふる、
未摘さんそぐのきれて、ほのまゝきなし給ほど、
ぞしうはあらずすゝしいまめきしろをつけがや
とぞこゝぐれしろころは、心行なくせひねしる、
ひとめしなき所なれば、心やすくいりまふ、令数と
まぞせ給、いましもおどろきがほ、いと令数詞はら

いてきわぎかな。しかくこそおりしましこなれ。
つねよかう恨(うらこ)罪(さこ)しのふをこころよかなまぬよしと
のこそこそしすさひ侍れば。こびかこゝとりも罪(さこ)
しらきんとの給ひわらなり。いかぐ罪(さこ)しかへさむ。
なまいくのこそやこそ。ふまひなまねば。こころ
ぐるしこそ。もれごしまそ。罪(さこ)しのりんことこそこそし
めをといへば。いとくぐしとしひて。人(詞)りもの
こそこしむやうもしらぬをとそ。おくぎまへねざり
いり給さ後。いとうぬくしげなり。うちわらひる。(余姫)
いと(詞)わかくしうおりしますこそこころぐるしかれ。
かぎりなきんもおやのあいかひうしろこ罪(さこ)しのふ

程(かど)こそ。わらびのもことりなれ。がぐらり心ぼそき
れ有(ミ)信(ありさま)になん。よをつきをぎおぼしたぐるは。ぬきな
なふこそとをしへ。男(きこ)。さす(まつむ)ずなる人のいふことは。
つまうもいなびぬれ心よそ。いへ(詞)きそこで。こぐ
きけとあらば。かうしなどさしてもありなんと
のゆふ。どの(令嬢詞)こなどいびんなう侍なん。をしこちて。
あらくしきれふるまひなどいよもなど。いとよく
いひなして。ふるまれきいなる。陳子(さうじ)をづらいと
つくさして。れしとのうちをきひきつくろふ。いと(まつむ)
つましげるおぼしこれど。うやうの人は。もの
いかん心ぐへなども。夢(ゆめ)はもしり給はざりなれば。

命婦のうういふとおもやうとそなひて抱し
あめれとじ川おいぐ人なとはざうしまいりゆして
夕まぐひしらる程なりわりさ人二三人あるは
よるめぞられなふ此有様をゆしきもれまおもひ
罪してこころげさうしあへり。よろしきれぜ
なりゆへつくろひ罪ゆれば。さうじこいなるのん
げそうもなくておもす。おとこはいとつきもぬれ
さ海をうちしのび。よういしこまへる。此けそひ
いこじうなまめきて。こうしらん人まとそこせぬ。
なるのもへあるまじきわりを。あるいとおしと
命婦もおもへどしぐおほとるもれしこまふ

をぞ。うしろやすうさしすぎこゝろとゞこしまり給
たゞとしひけり。げがつねまをめられまるつみさり
ごとる。心ぐるしき人のれ抱しひやいでこんなすど。
やすらぎしひねたり。恵(源ん)い人のれほどをおぼをば。
ざれんげんないまやうのよしぐこよりも。こよ
をうおくゆしとおぼしわたるまどううそぐの
うされて。おざりよりこまへるけるひ。悪(しの)びやうま。
えびのかいとなりしうかほり出て。おほとろ姫(なろ)を。
されぐよとおぼさる。年比(としろ)しひわたるさ海なすど。いと
よくのまひつゞくれど。まして(未つむ)ちりきれいくへも
こそてをりし。わり(源)なれわぎやとうちなげきまふ



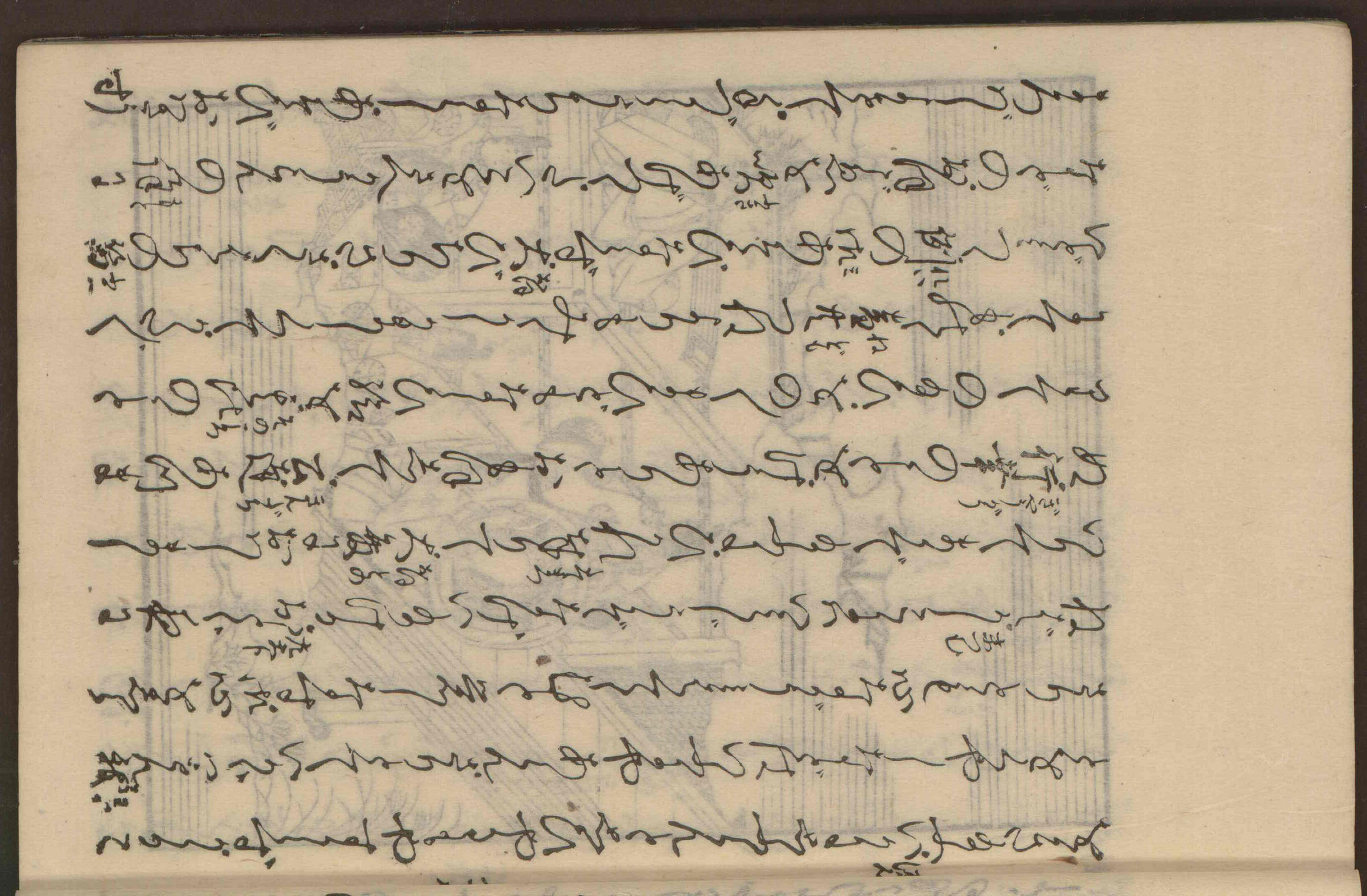
こゝゆんこゝろもくるしかりけり。なまやかやと。くるれ
さことなれど。おりしさ夜まもまめやかまものあ人
どなのかひなしいとかうもさ夜かへて。おもふ。うぬ
ことまもれしまふ人まやとねるくて。やをらをし
あけて入たまひまり。命婦あかうしてこゆめ
まへるといとおしくれば。しらずがほまて。ゆがうえ
いまはりこれわかへどもくる。世ましらぬひなりされ三
有様のをとこさまつゝゆかしこさくして。おどろ
おどろしうもなげれず。こゝせひもしらずまはり
まてさうれこゝろもるさとぞせひけり。さうじゝハ。
こゝわれまもあらずくしくつまし。さゝり

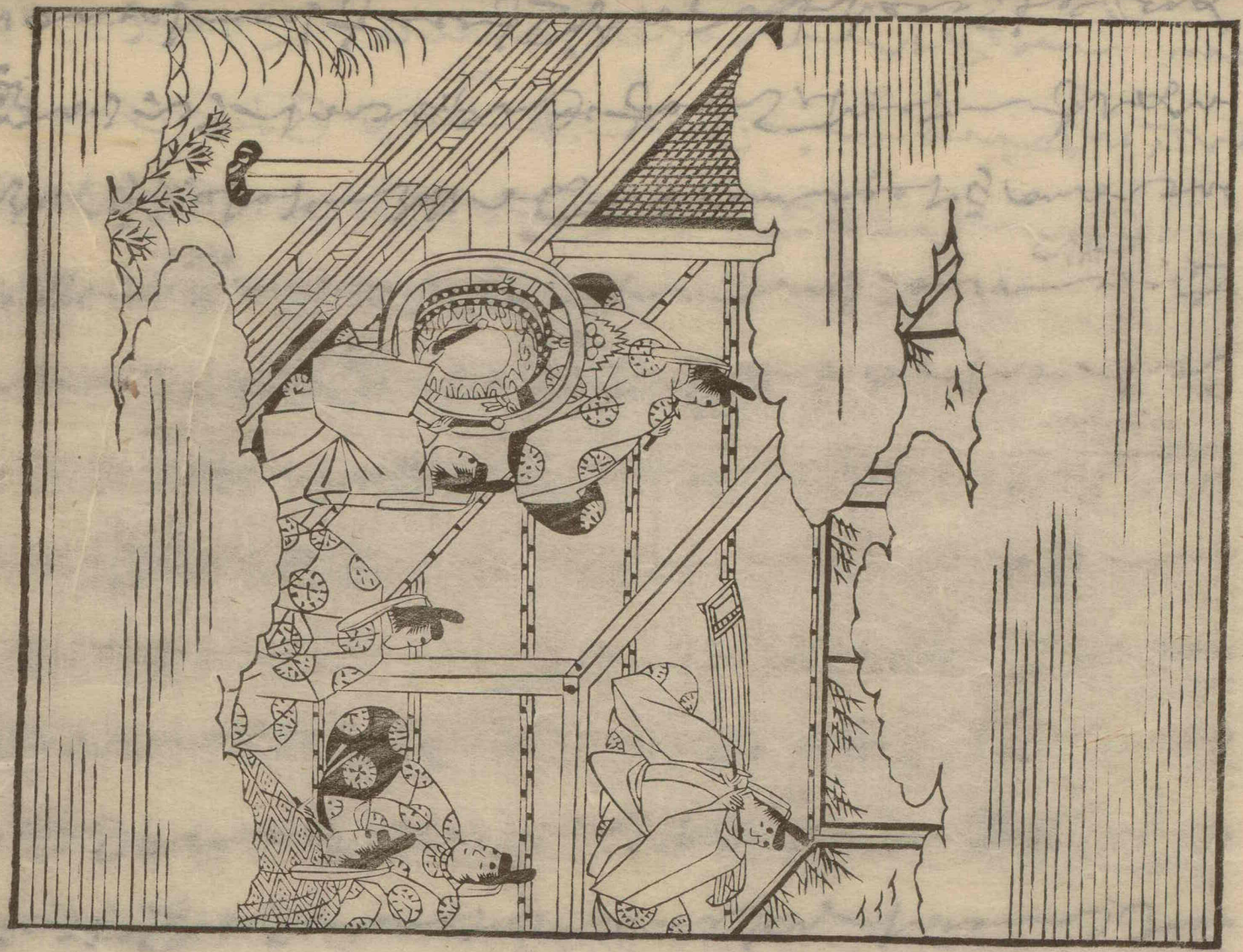
卵のことまるなければいまはかうぞ気なるかし。
まぶせたれぬ人のうちかしづれたるとこゆし
なふもれかしこころえずなまいとおしとおぼゆる
れさ海なりなまごとまつけてかしこころのと
まらんうちうめられてよふかう出のぬ。命婦ハ
いかなるんとめさめてこさくふきりかれどしりが
ほなるじとてれをくりまともこはづくしず。君も
やをし遊びて出のまはりに二条院におはして
うちかしのひてもなをしふるひがくさ世ま
こそとおぼしつゞけて。かうしかなるぬ人乃れ
ほどはこころぐるしとぞおぼしけるせひこぐれて

おはするに。鼠中(とうのちうじやう)ねおもして。こよなきはあさい
うなゆへあらんかしとこそ思ひぬへしなれと
いへば。お(源)さあがりぬて。ごろ(詞)やすさひとりねの床(とこ)
まてゆるひまなり。うち(内裏)よりりとのこまへ。ぶ(以中詞)
まがてくべるまゝなり。朱雀院(すさくのゐんのぎやうかう)行幸なんがく
人まひ人さぶあらるべきよしうけ給はりしを。
おとゞ(左右)まもはゝへ申さんとてなんまがて侍る。
やがてかへり。美(まい)りぬべう侍るといそがしげなれば。
さらば(源詞)もろともなとて。はゝゆゑはいひ知して。
まらうとおもまいりぬて。引(ひき)つゞけられど。ひとつる
ゆりて。行(なを)いと(以中詞)ふこげなりとくがめ出て。うくいる給

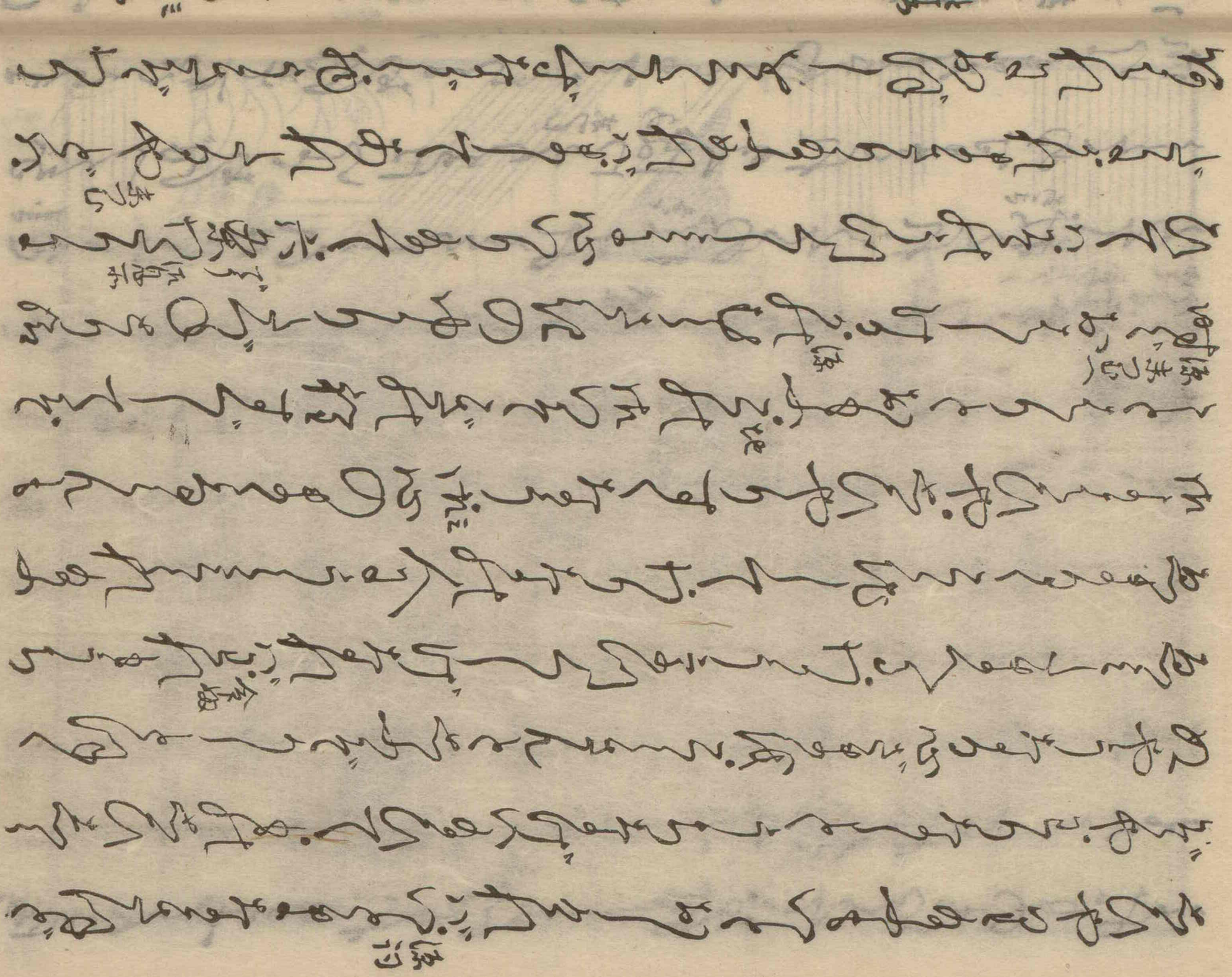
とあはりとぞうしと罕九(きこ)しまふことにもあはく
さるめしらく日まてぞちまさふひくらし給
川(末つむ)こまは(添ん)ふこゝ成ぐまといとおしく覚し出て
ゆふつるぞなりけり毎ふりいでゝところせくも
あるまがさやどりをんとくるあはされぞやあり
けんがしこまはまれほど通(すぎ)て命婦もいとくおしさ
れさ海かたまと心うくしひかり(末つむ)さうしこゝん御(こ)
心のうちまどげかしうおもひつゞけまて けさの
れふこのくれぬりもどうしも中くおもひつゝる
まはざるもかり
夕(添)ざりのくるくしきもまふこゝぬまいふを

さそふるよひのあめかな。雲まくらえんほどいかな
心もとなうとゆりおりしますまじきれなしきを
人ごむもつぶれておもへどなをを冥(さこ)させまへや
そぐのしあへれどいとぐ(未己)むひこぶれまへなほど
まて絵(ゑ)がるのやうまもてけ給ねば更ふけぬ
とて仍(おそう)涙ぞ例(れい)のとしへきゝ移る
(未己)それぬ夜の月まり星(さと)をおもひやれおれば
心なぐめを涙ともくらぐまをめられて紫(ひらさき)の
うゝのとしへなれどもひをくれふるめつるまれ
てはさすがまもじつかう。中さぐのすぢまて。
うゝしもひとしくなまへり。(添)こるるひなふうち





はいとまなきやうにてぞちるおぼせ前ぐらけ
とそぬすまされぬへ度(みの)つりにはいとおぼつかな
くて秋(あき)くれとそぬ程(をと)これこそしかひなくて色(すき)
の行幸(ゆく ぎやうがう)ちくなりてしかくなどのくしかなころぞ
命婦(まい)とまれるいかにぞなどひかそいとあし
とはおぼしたり有(あり)猶(さま)きこしていとかうもてなか
れたる心(ミ)ぞんはこまふかふ人さへこころぐるしく
なぐなきぬぐらるさへりこころにくもてなし
てやこなんとさへりしことをくらいてげるこころ
もなくこれ人のさふらんをさへおぼせさうじ
これものもいとでおぼしたりけれとまふらんさ後



なりけり前(とき)をさき掴たぢをこあらはさんの作(ミ)心も
ことなくて通(すぎゆく)りをうちかへし。こまのさりを
引やうもはりし。おさぐりのこどくしきな
あやしう心ぬこともあるまや。こそしがなとれ
もほをど。けざやかなとりなさんもまばゆし。
うちとけしろよひねのかどやをしいりまひて。
かうしのまぐ海よりこまひかりされどこ(まつひ)
げかしにしなしべくもあらず。きてなどいふく
そこなまれしろもれかしとしへはけるしちど
かんぐ。そしやりなどこぐれねぢ心もとなくて。
ごぐち四又人ねしりぬぐひそくやうのもろう

のもれなれど人目ろきまなまのくさくひもなく
ゆくれげるるまくぞくひとぐくふずこのまづり
まぞいとさむげなる女房(ねうぼう)しろき衣(こさぬ)のいひしらず
すくけるまさきなげなるしびらひきゆひつけ
ころこしつきうくなしげるりさすがよくしそし
これてさしらひたいつき内教房(ないきうぼう)内侍(ないし)どころの
祖(かど)まうるもれどものあるやとおりしうけてもひ
とのあらりまちうふるまふもれともしり給ひ
ざりうりおくれさもさむきとしかれ命(いのち)なりがれば
うる也まもあふもれなりかりとてうちなくも
ゆり故(こゝや)常陸(ひたち)おりしまして也をなどてかくしとしひ

けんかくこれをなくてもすづる抱成(なり)なりとてどび
こちぬべくふるふもありさ内ぐに人わろき変(こと)
どもとうれへあへるをさ給もうらいるなれば
こちのさてこそ今おりするやうまておこうさ
まふ(まつむ内人々)そぐやなどいひて火とりなをしかうしいか
ちていれなり(そまつ)侍(ぞう)従は無(さい)院(かん)にまいりかよふわか人まて
此ごろはなりなりいよくあやしうひなびこなか
うぎりまてこなのしもぬ心ちぞするいとぐうれふ
なりつる雪(ゆき)うさこれいとじうふりなり雲(そら)の色(けしき)
くげしうしふさなれて御目とまぶら消(きえ)にけるを
ともしつる人もなしかれ(源ん)もれ(六条院)にをそくれしおり

おぼし出られてあれたる庭にとくさざめかは。
ほどのきざうしげのすこしかなずぐさめ
られどずゞろなるそゞろざきとき出ちすさみさ庭
なり。をりしもかれはもやうぐへて心とまりぬ
べきかりさ庭をうとむもれすくなくてかのゝへ
なきとぞ。口おしうおぼさがうちそめる氣(あけ)(け)
色(しき)なればかうしまつ(て)あげさせて。まへのせんざいの
雪(ゆき)ところどころむかしけさる跡(あと)もなくぞ。くづくとあれ
わたりてうちずうさびしげなるふり出てゆかん
こともかれはて。おりしもほどのそらもとしたまへ。
つきをめけ(え)ころのくぶそしてかりたちわかれとぞしき

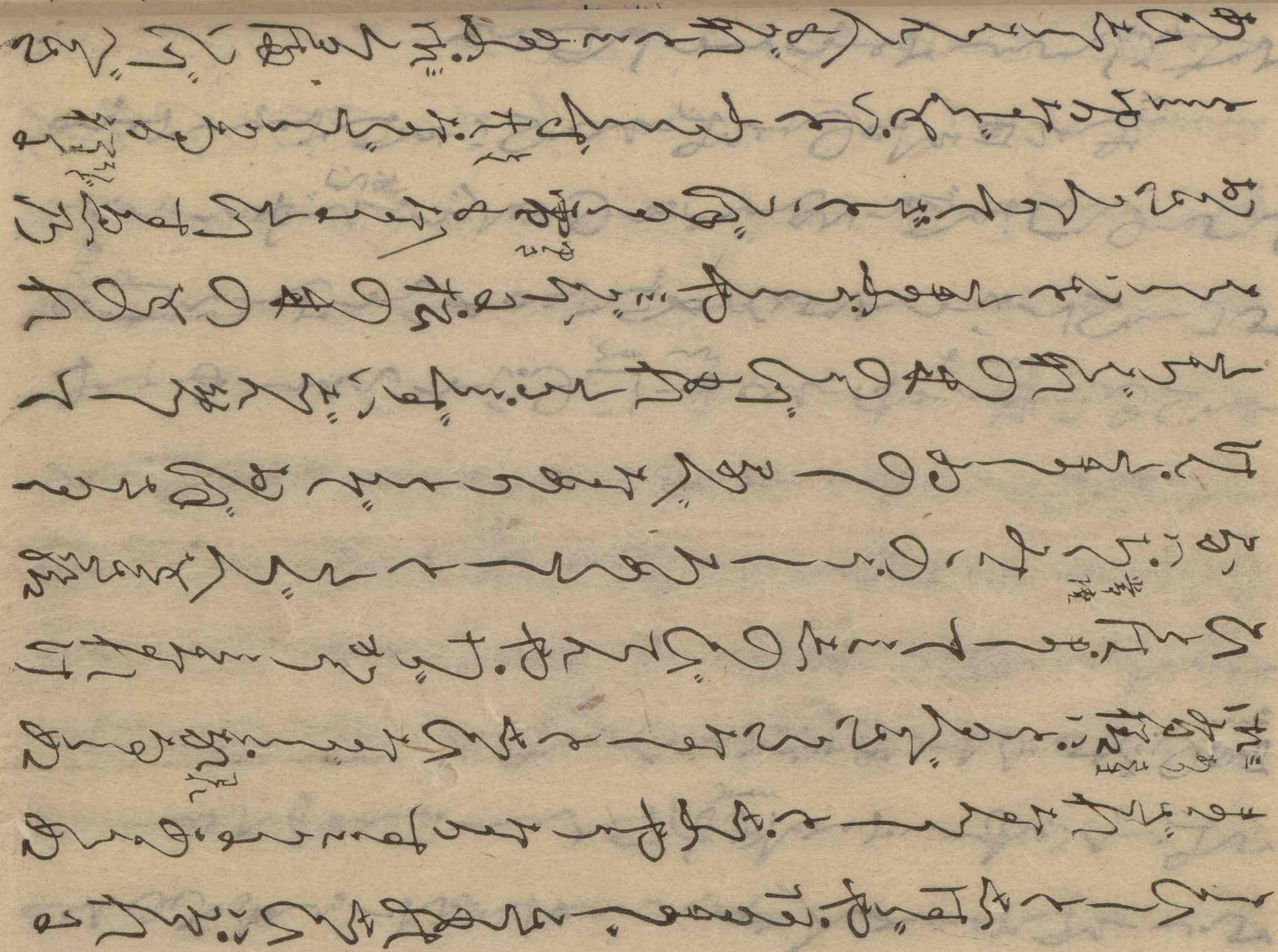
なきこしかなおもかげほのぐらくれど。ゆきさへ見えぬ。ひとく
なきかしまはかりこしかなと。老人どもはなきこゑて
こまかなる。源氏やませさせしまへおぢさせしに心かけて
なきしそなにかとよへ宮ゆれば。まろきずまへのなきこゆ
しくとえいるひのちめ給ころまでどうかつ
ろひてねざり出すへり。源氏めやうすてどものなせ
なかめかへれど。ましりめれしもなきずいかまぞうち
とけまさりのいさくにもあくがれしりくんとお
ぼえても。おかくちなかり心ろなかりや。まずけおの
なからをせなずなにしまかま。されどもね
つれめ。うちつかでおかくこわてゆかもれ

それ奴(ちり)ゆゑめぞとまり。普賢(ふぐん)菩薩(がさつ)のゝりものと
おぼ程。つのさましうしうのびらかに。さきれかる
すうしうりて。色(いろ)づきたる夏(ごと)のほかにうしそ
ゆりいろはゆきとげしくしろうて。さとに。ひこ
つきことにたうそれたるに。たすをしもがちるかお
もやうは。大かるにおどろくしくたすがきぬ(ちり)べし。やを
かへることいとおしげにさしぼひて。かるのわど
などは。いたげなるまでこゝ程。なるに
のうりなうしあらりしつゝんとせふ抱かしめづら
しきさ海の志れぞ。さすがに打(うち)こやられたまふ。
りしらつきかしのうしいしがしもうけしげにて。

げまこれかはなりてもさむかしましとみゆる
れかゞ海なるをこゝろぐるしとこゝのふなるまごとも
ゆされ給ふぞやれさへくらとぢしろゆちしのへど
例のしぐまもこゝろえんとやうこそしのゆる
いそうまぢしひてくらおほいしのへるさへびるび
ゆるあしうことくまくぞしき官のねり出る
ひぢもちおぼてさすがまうちしのへるかし
きつしるうまぐろびうりいとおしくあれは
て いとぐいそぎ出のふ 源河 れましきへるき出有信を
こそあるへはうとゝぞおもひむつび給へん
こそほいあるこゝちすべかれゆるしなきれ三にしき

なれば、つらうなまどことつけてる
あさ日さすのされたるひはとけながらなども
つらのむすばるゝんどのあへど、まつむすことうち
ちりひていとくらともげなるもいとおしかれば出
あひぬれ車よせたる中門のいといたうゆがみ
よろぼひてよあまたしたるきたるがたもよろげかく
後へたることおほかりなれいと兎はさびしう何れ
まどへるは松の雪のゆきのこあたりげはありつめる山
里のゆちして地衣なるをかれ人ぐのいひしもぐ
らみかどいかやうなる所也けんしげは心ぐるしく
らうたげなるん人をこゝはすゑて、うしろめたう

しひしとしはぐや。けるまじきもれしひ。ハそれは
まぐれなんしとしふやうなりすこうよあらぬ
れ(三)有(ありさま)ハとるべきなしとしひなりしれ(ゆれ)なしぬ
ひとは。ましてこしのびてんや。わがかうこなれけ
なハ。ちく(常陸)みこのうしろめたしとしぐへとき給
けん。しましぬのしるべなりとぞおぼさる
しちぐれのまのうげもれしるこずいぢん先して
たしいをしまふぐしやこがれは松のまのとのれ
おきかへりてざとこぼるゝ雪(ゆき)もなまよけすゑ乃
とこゆりなどをいとふくしず(とも)たりぐしかるる程(ひど)は
あひしたしたん人もがれとこのふ。れ(三)ふる海いげべき



しどいまぶあけざりそれがけざのあげかりしづね
出さればおほれのいとくいとじまぞ出さるむせ
めよやむまぐるやうしるるおほされ女のこさぬ
ゆきるあひてすけまどひさむしとおもへる乳
色（しき）かうてあやしさ抱き火をしぐほのうまいれて
袖（そで）くくるもたりおこさなうじをえあけやれば
ありてひさしすくるいとうくなりぬとものの
人よりてぞ何事つる
源
かりまけるうしられ雪（ゆき）をみる人もととしず
ぬしはあされ袖（そで）かれ

つきもれいかるちくさずと折すじまひて
菓の文はいづめくゆとさむしとこしつれおも
かげふとおもひいでられてほく急まれまふ頭中
将はこれをこそとこそん時いかるることをよそへ
いたんつねはうかぶひくれだいまこけけれなん
とすべなうおぼしよれつねなるほどのことな
なこかしなさしなる程だおもひしてくもやみ
ぬべきをさぶかはこゆひてく中しくあられは
いうじくてまめやかなるさ海はつゐはとづれまふ
ふるきれかもしなるぬきあやわるなど老人の
きるべきもれくらぶひ皮おされのるめまでかん

しもおぼしやりてとてまつり給かやうのまゝやう
ことゝもぞげかしげなるぬを心やすくさるゝ乃
うしろまてそぐまんとおもほしとりてざ海
ことまさなるぬうちとけわざもし給なりかれ童
蝶(せこ)のうちとけしらしよひのそばめいとしろ
かりしかるちざ海なれどもてなしまかなし
されてくちおしうはあらざりさうしをとりべ
さほどの人なりやはげましれまもよるぬまざ女(まり)
なり心ぞもれなるぐらかよしらげなりしをまけて
やうなしかれと猶のおりごとまは荒(おが)しいげとしも
(源十一文)
くれぬ間のれとれぬ所(どろ)まおりしますま大輔(さいふ)の

今姫(ミヤウ)来(まい)れり。れけづりぐしなどまゐけさうぐり
すぢなまう心やすさものゝさすがまのひこゝれ
などしてつゝひなりしまへれがゝしなきとさも
きこしめべきことあるありゆまうのわりなりあやし(今姫詞)
きこしの侍をきこしさせざらんもひがくしうさひ
しまへまづしひてとほくゐえて罪(さこ)やらぬをなる(源詞)
ざ海のことぞ我(これ)はつゝむしとあらじとなん思ふと
のまへいづりも(今姫詞)ゝしげかゝのうれへもうしろくとも。
まづしそはこれもいときこしさせにくくなんとい
しうことゝあれだれ(源詞)いのえんなるとにくこ
まふかれこや(今姫 末つむ)より侍るれふことそとるといぞしうり。

まして（添詞）これはとりかくすべきことかはとて、ぞり
おふも胸（令嫁むね）つぶるこちのくまぐこれあれごとしるる。
自（まず）ひぐりはふうしきんまへり。いとおうかきおほ
えたり。哥（うた）も
（末摘）なし衣（しゃく）こきみが心のつれが袂（たま）はかくぞくほち
つのこ（添）ごろえずうちかるふきまへる。（令嫁）いしるま
ころもぐこれをもりかま。こぐいなりうちをきて
とし出たり。（詞）これをいかぞかはかるはしいく思ひ
まへざらんされどつくこちのれよそひとて。わざと
待めりをけしるるうはえかへし待ます。ひとりひる
ことあらんも。人の（注）心しがひ待べかれば。ぬらんぜ

三十八

きこえてことにこそゆれば引こめられなんいかゞ

かゝなおし襧おこるさんひともなきさ男はいと

うれしき心ざしはこそそひとのあひてこゝはあの

いとれしまりず。さてもあさましのくちつきや。これ

こそいまづらのはこれかぶりなあれ。縁をしそ

とりなをすべかめれば。おほきみぞその志ゝろとゞうそせず

なをかんべきこといふにひさしくおぼすゞろをはらして

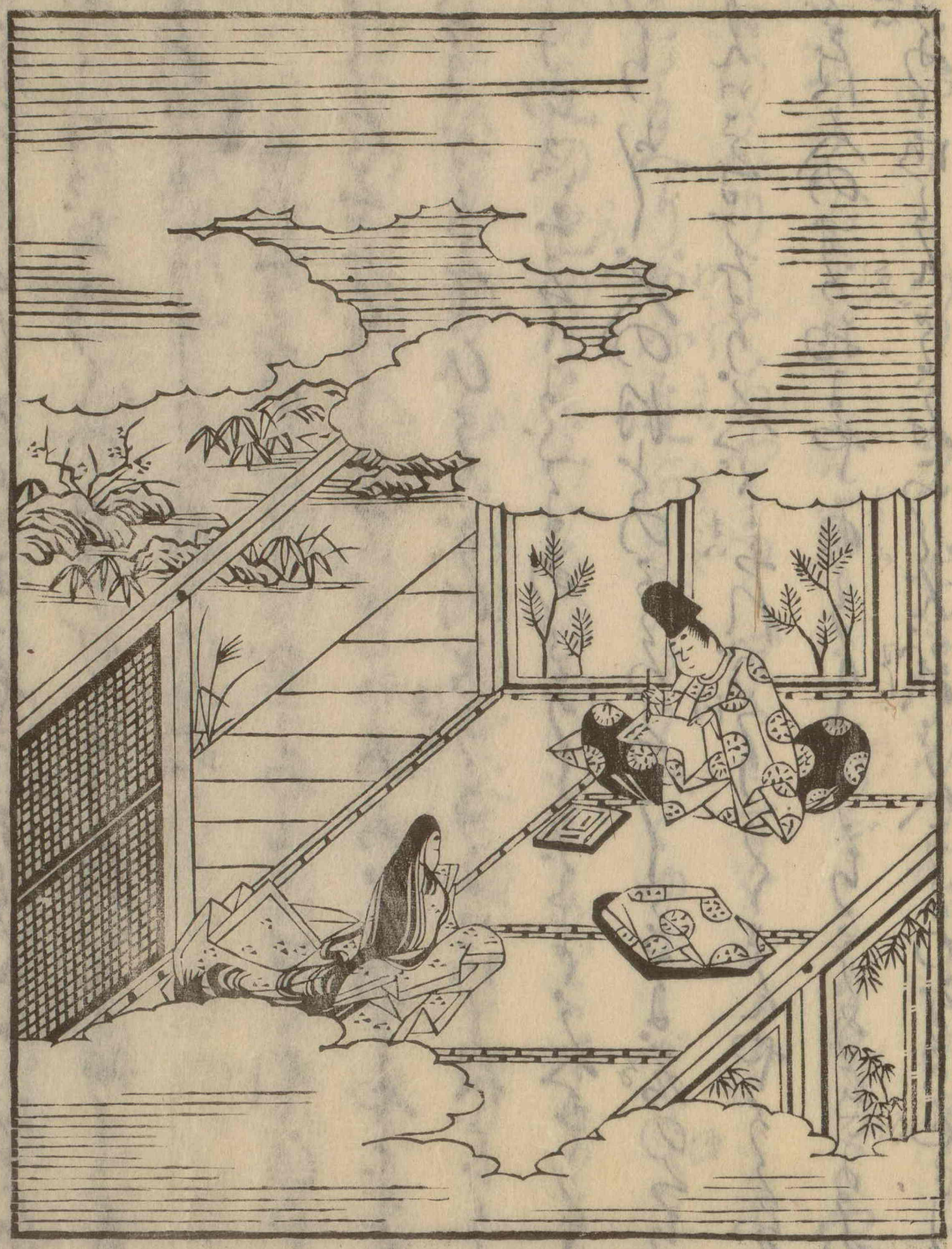
このきみのへらんほどとおぼすまいとおもしろさ

かくとはこれをいふべかりけりと。ほくゑみつる

このみ命婦おほそあなきまうでやう色の

えゆかすまじくうやたなうかあさしかなきの

うちうへひとりのみ夜やさむからむとおもひくらし
うつまくらづくしつるおもかしとおぼえす
けふこそひろげそずぞりまそそひすまひ
あそをぞばめまされど
涼あきうき気ともなすまそあの末つむ
それど袖まぬれけんぶろきききもうしうど
まやうきうづしまふ

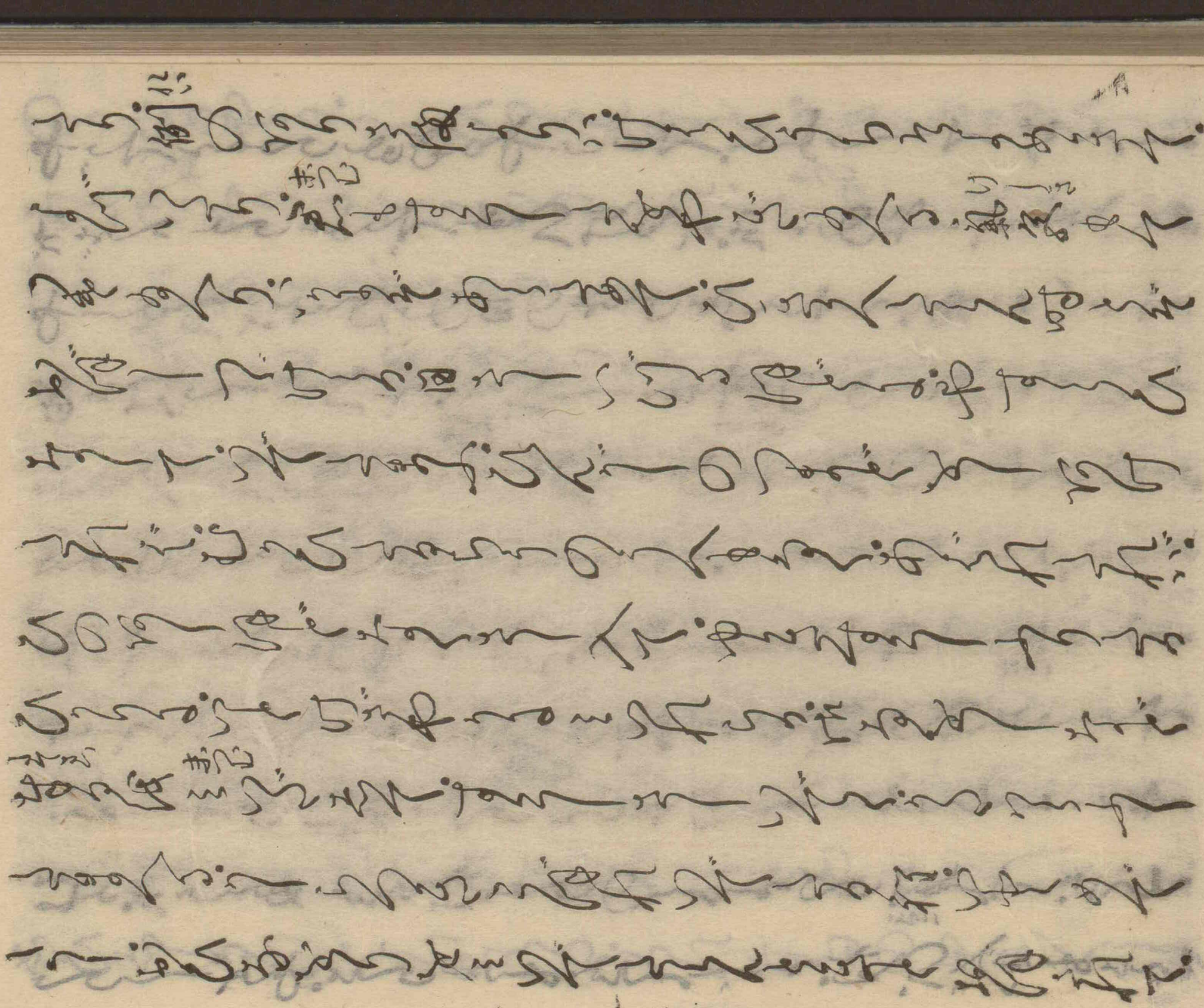


余姫心
それのとがめ給ひなをあるやうあらんとおもひ
あんすりおりくの月かげなど給いとおしき
もれうらおうしうらひなりぬ
余姫
それなるのひとくかごろもうすくもひる
すくそ寸なをしてばいころぐるしのよやとい
いうなるまてひとりごけをしきまはねどかう
やうのかいなてまぐるあるましかぐとうへてく
くらおし人の目どのころぐるしきまなのくら
なんいさすがなり人ぐ氣ればどりくさんやうるか
わざは人のすり拙まやあらんとうちうめきまふ
余姫心
なすかくあらんどきせつん我さんこころなきやこし

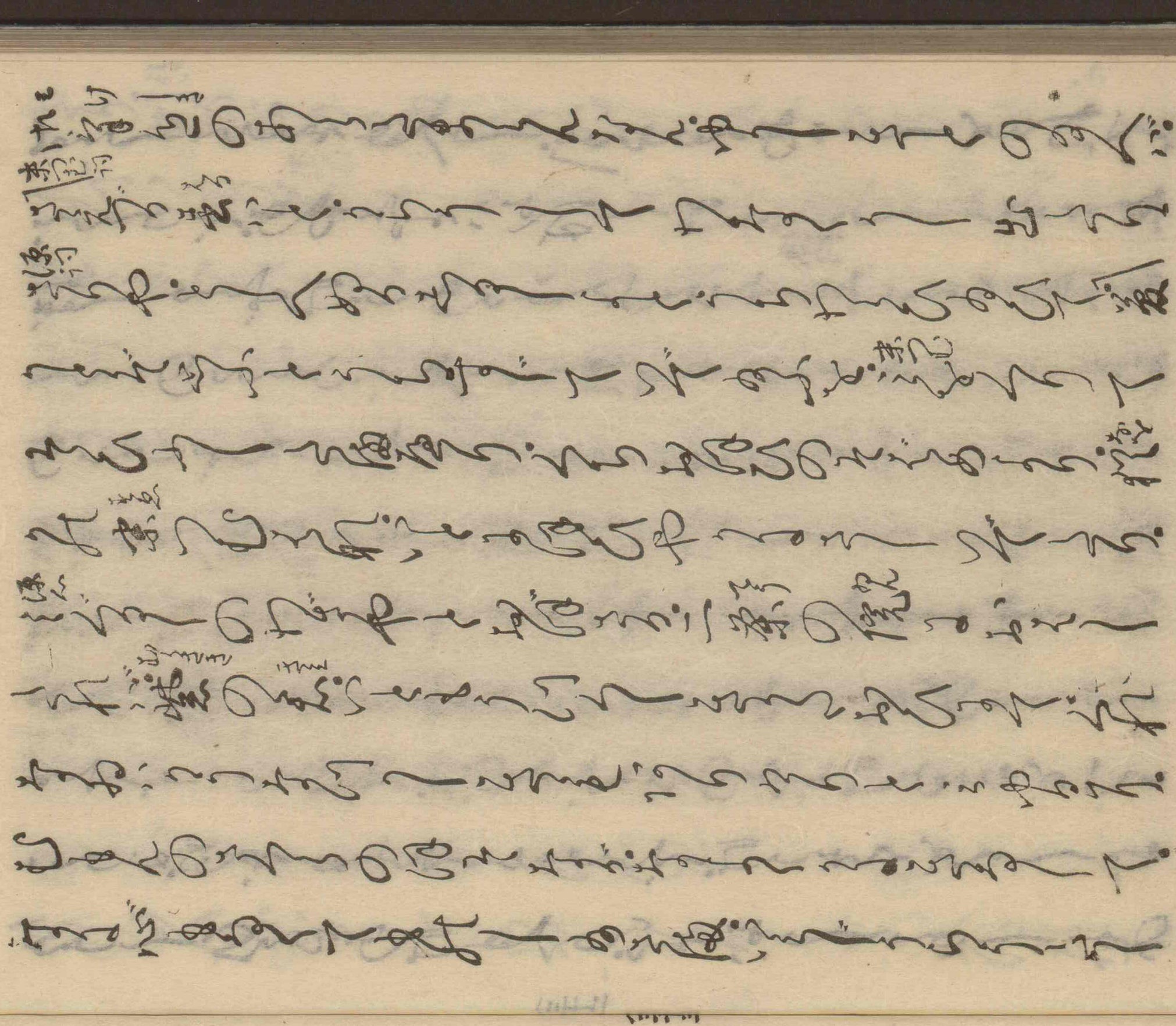
まとゆとそぐしらてやそらおりぬまちの日うへ
まさふへぐらいたん所まさしのぞきまてぐやや
昨日のくりことあやまく心ぢゝすぐさるとて
なげかへり女房達何度なるんとゆしがる
梅の花の色のごとみうさの山のとゝめをいすてと
うしひすさひて出ぬかを命姫いとおうしと
ふごろしぬへぐいなすぞ此独ゑくとやがん
あへりおしぎさむき霜あさるがいねりこれめる
菜の色あひやこしつゝん此つぐしりうこのいやく
おうしさといへばおかがちなれことかれこれか
りまはまゆへる菜もなるあり左をの命姫ひごこ

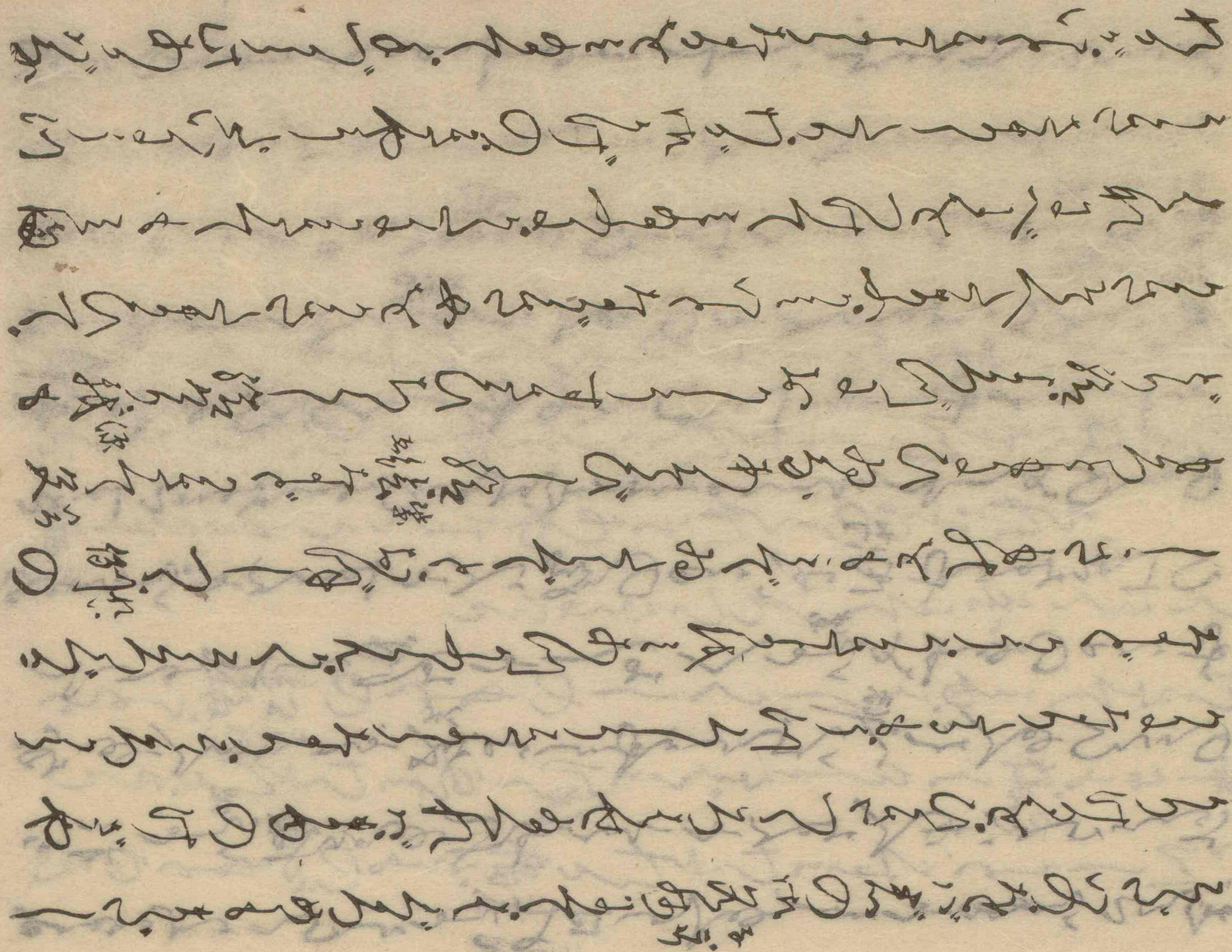
のうひめやまごらひつらんなすど心もえすいひし
ろふ。(令姫)はりうりうそまつりうれぞ。(まつむ)こやまは女ぐら
つどひうるこゝめでかり
(係)はらぬ。ら成るぐつる中のころもでまうさね
ていとぐこゝもしこゝよとや。志ろきうこゝるすてかい
めへる志もぞ。中しくおうしげるる。はぞもりの日
ゆふつる。うれは衣(こゝろも)ぐこゝまは。れうとて人の生(そこまつ)
れうはぞひ(一)とぐ(具)えびぞめれをりものくはぞ。
又やまぶきうるまぞ。いろくこして。令姫ぞ生(そこつ)り
ろ。はりし色(いろ)あひとわろしとやこゝのひかんと。
さひ志るれどうれたる。うれなゐのおもくし

かりしとや。さりともさてしじとねびんどもちぐ
むろ。ぬうゑもこれよりのしとりつ冥(さこ)してぞうる
まことてあれ。ぬかりはしらぐおりしきうまこ世
そど。そちぐまいふ。ひめ(まつむ)ぎもおぼろけなしそ
志いでまへるわざなれば。ものまうさつけて亜(とこ)のんり
かり。つゐちのほどすぎて。しとしおとこぐうる
けるべかれば。例(れい)のところぐあそびのしきり冶ま。
抽さはがしかれど。さびし(涼ん)き前(とろ)のあれまおぼし
やしかれば。そすぬかの日のをちゑとて。夜まいりて
ぬぎんよりまうでまひけるを。ぬとの升ぎしろま。
やがてとまりまぬるやうまてよふりしておとし



かうしひさあけまへりいとおかしかりしもの
こりまかぎもちてしまもでけりそくをしよ
をてうちかけてれびんぐさのしどけるさを一く
ろひ給わりなうふるめきたる。さやうじゑのかしくし
げかげのもとなどくりいでたり。さすがまおとこの
れぞさへほのぐあるほざれておかしとこゝろまふ来
のさうぞくはふはすげきたりとゝゆるはかりし
もこのころぐんもされがしなりかり。さもお
ぼしらぜけうあるもんつきてしるさうはぎ
ぐりぞおやしといおぼしけること（源行）しまゝ思
すくしきをまへうし。まゝるくぬいさしをれて。





をうきつけまかりしてこのゆるうくよりきかは
ぐるさてまじれらんにこぐるしりるべかるとかるを
姫(ひめごぎみ)こそいこじくわしひかまろがかくうるまる
女(おり)なすんいりなすらんとのゆへぞうこそこそ何くめ
とてさもやしこつむとあやうくせひまへり宅(ゆゑ)
のごひとしてさしるこそしろまるようなきすさ
ひわきなりや内(内)にいるの給りんとすらんとゆとまめ
やうるのゆふをゆとくおしとおぼしてよりて
のごひゆへぞへいぢうがやうに父(いろ)どりそへのか
何くらんにあへなんとこそこれのさ海いと(地)おう
しきいもとこしのへり日れいとうらくりるるる

（三十四終）

いけしうとくすゑやうれる梅（ニゴ）どもの心もとなる
中にも梅（むめ）をくしきぞこゝ風ゝゑやうれるとり
けきてこゝ也ゝらしぐくしのもとの紅梅（こうだい）いとゞ
くさく茎（えな）まていろづきなり
（添）くれなゐのくれぞあやなくうとまるゝ梅（むめ）
の立枝（きえ）はなけりしをれどいぞやとあいなくうち
うめられしまふ（地）がらなひとぐくのすゑぐいりな
ほけ花

69038
6AP7B